

ブレグジット交渉の主なシナリオ

(EU残留)

円滑な離脱

(2020年末までの移行期間へ)

ノー・ディール

(移行期間なく第三国に)

EUとの交渉

- 離脱協定(法的拘束力を伴う)と政治宣言(伴わない)の双方で合意が必要。
- 離脱協定は9割近く合意済みだが、北アイルランド・アイルランド国境の「バックストップ」が未解決。
- 政治宣言に含まれる英EU将来関係は、モノの貿易のみ事実上の単一市場を目指す英国案が問題に。

北アイルランド・アイルランド国境管理の解決策が見いだせ、将来関係の大枠で一致できれば、合意成立。

双方、現状案から妥協せずに時間切れ、またはノー・ディールを選択して交渉を打ち切れれば、英政府はこれを英議会に諮る。

英議会での審議

- 与党保守党には、英政府案に反対する離脱強硬派が60~80人程度存在。
- 最大野党労働党が合意賛成の条件としている6項目には、現状の単一市場・関税同盟の恩恵を確実に実現することなどが含まれており、合意内容がこれに合致する可能性は極めて低い。

ノー・ディール回避のため、英政府・議会はEUとの再交渉、離脱期限の延期などを求める可能性があり得る。この場合も、EUが応じなければノー・ディールに。

保守党離脱派が政府案に合意、または労働党から相当の造反が出て、過半数に達すれば、離脱協定を法制化し、円滑な離脱へ。

合意内容への賛成が過半数に届かず、こう着状態に。政府がノー・ディールを持ち込んだ場合、議会が受け入れれば、確定。

(総選挙/2度目の国民投票)

総選挙または国民投票を経て、議会が合意を支持すれば円滑な離脱へ。ただしEU同意による離脱日延長が必要となる可能性。

- こう着打開のため、下院解散・総選挙か2度目の国民投票が選択される可能性も。
- 解散・総選挙は下院の3分の2以上の賛成が必要。与党保守党議員は強く反対。
- 国民投票はEUとの合意を問うのか、残留を選択肢にするのかで紛糾する可能性。

総選挙または国民投票を経て、合意不支持が選択されれば、ノー・ディール確定。

総選挙または国民投票を経て、残留が選択されれば、EUとの調整へ。

(出所)各種資料を基にジェトロ作成
(注)英国とEUが交渉に合意した場合、EU側(欧州議会とEU理事会)は合意に賛成すると仮定。